

南房総

# 木質暖房機に補助制度

園芸農家に  
半額補助

間伐材利用と燃料費削減へ



暖房機に薪を入れる田中さん＝南房総市内で

南房総市が、施設園芸農家向けに木質バイオマス暖房機の普及に力を入れている。間伐材の有効利用とCO2削減の取り組みで、今年度からは設置補助制度も始めた。高騰する化石燃料以外の切り札として、農家からも期待が寄せられている。

「かなりの効果。重油を使う量がだいぶ減ったよ」。同市山名の花き農家、田中正雄さん(65)は、ユリなどを栽培する約150坪のハウスに先月中旬、市の補助制度を使って木質暖房機を導入し、石油暖房機との併用を始めた。

今年から二重カーテンにした影響もあるが、ひと晩で約70リットルは使っていた重油が、約20リットルに抑えられた。薪(まき)代を含めても燃料代は約6割程度となった。

重油価格は高止まりし、農家経営を圧迫している。「円安などで価格が下がる要素はないと思いい、補助制度を活用した。半信半疑だったが、期待どおりの効果がでてい

る」と明るい表情で語る。木質バイオマス暖房機は、間伐材などを燃料とする環境にやさしい暖房機。市内に数多くある間伐材の有効活用と、原油

価格の高騰に直面する園芸農家の経費削減につながるよと、市では過去2年間のモニタリング調査で導入を模索してきた。

燃料削減の効果があつたことから市では今年度、約40万円の設置費のうち半額を補助する制度をスタートさせた。田中さんら市内4軒の花き農家が手を挙げ、設置台数は現在10台となっている。

暖房機を普及させるため、燃料の薪を安定供給する体制も整えた。森林組合に間伐材はふんだんにあったが、薪を生産する手段が乏しかったからだ。

同市大掛の市有地を生産拠点とし、国の緊急雇用を活用して森林組合の作業員を増員。急ピッチで薪の生産を始めた。「現在で約600立方メートルの稼働台数なら来シ

ズンを含めて十分な量が確保できている」と同市担当者。

市では、補助制度によって今後3年間で30台の設置に結び付け、さらなる普及への呼び水にしたい考え。

しかし、燃料費削減などに効果は出ているものの「欲を言えば朝までずっと燃えていてほしいし、煙突の汚れも気にならなく(田中さん)というように、農家サイドから

みると、石油暖房機に比べハウスの大きさも限られ、燃焼時間の短さ、管理面での課題も多い。

同市の担当者は「扱いに慣れるまで時間はかかるが、節約効果は間違いなくある。農家の期待も高いと感じており、今後使用法のマニュアルの充実やメーカーへの改良をお願いし、課題を解消させて、普及につなげたい」と熱意を語っている。